

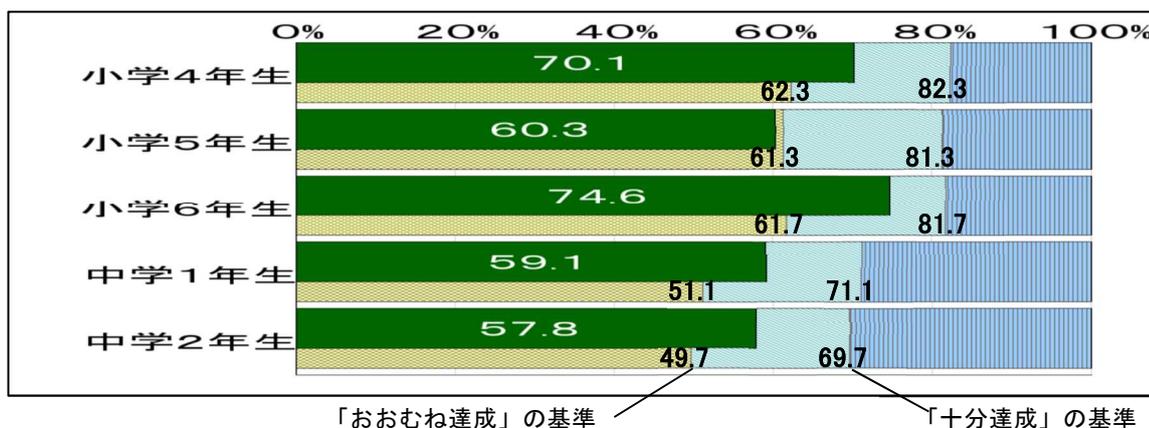
Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

国 語

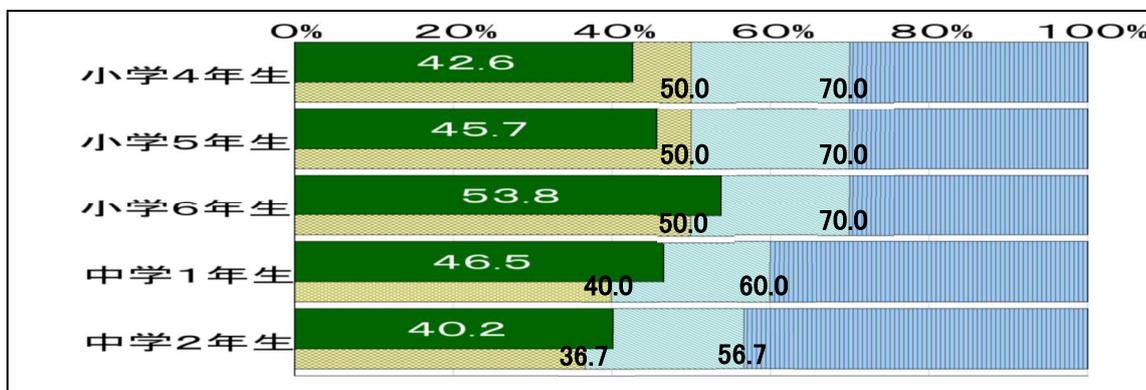
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学4年生と小学6年生、中学校の全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。小学校5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学4年生と5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、小学4年生、中学1年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「話す・聞く能力」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「知識・理解・技能」については、小学4年生、小学6年生、中学校の全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、小学6年生で「十分達成」の基準を上回っている。「読む能力」については、小学6年生と中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～6]
- 内容・領域別に見ると、「漢字の読み」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、小学4年生と小学6年生、中学校の全ての学年で「十分達成」の基準を上回っている。「漢字の書き」については、小学6年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。「語句に関する知識」については、小学6年生で「十分達成」の基準を上回っており、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ7～11]

[グラフ1]国語 教科正答率



[グラフ2]国語 「活用」に関する問題の正答率



[グラフ3] 国語「話す・聞く能力」観点の正答率

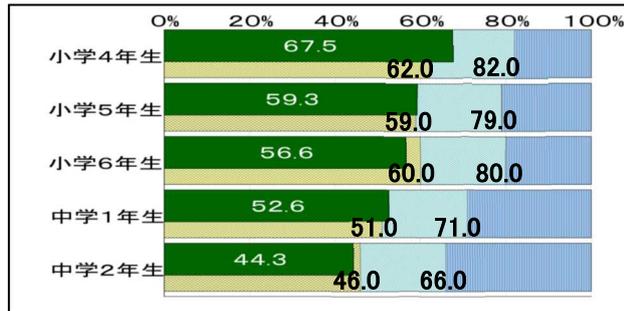


「おおむね達成」の基準 「十分達成」の基準

[グラフ4] 国語「書く能力」観点の正答率



[グラフ5] 国語「読む能力」観点の正答率



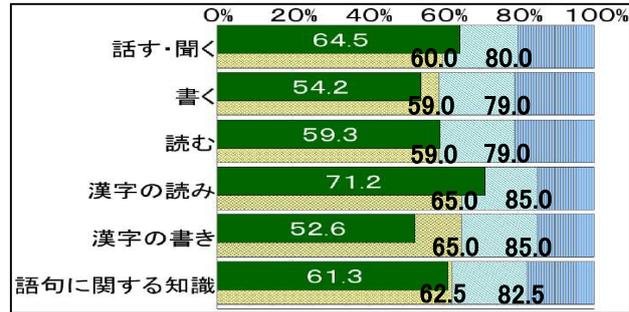
[グラフ6] 国語「知識・理解・技能」観点の正答率



[グラフ7] 小学4年生 内容・領域別正答率



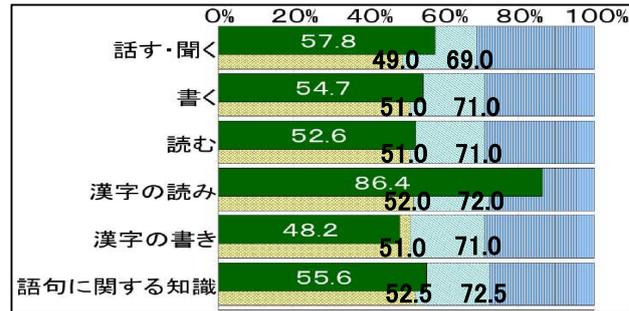
[グラフ8] 小学5年生 内容・領域別正答率



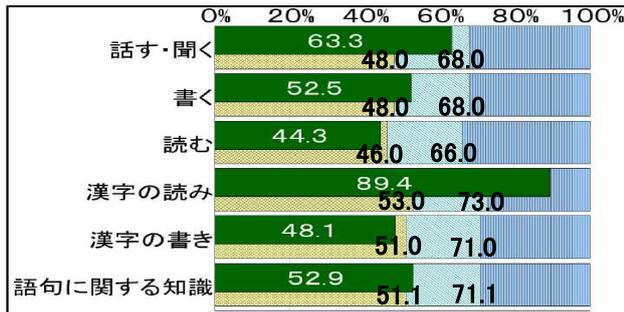
[グラフ9] 小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ10] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ11] 中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校国語（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 指示語の役割を理解したり、接続語を使って一文を二文にしたり、同音異義語の意味や熟語の構成を理解したりすることができている。
(小学4年生 $\boxed{5}$ 五①②③、小学5年生 $\boxed{5}$ 六、小学6年生 $\boxed{5}$ 五六)
- ◇ 文脈に即して漢字を正しく読むことができている。
(小学4年生 $\boxed{5}$ 一、小学6年生 $\boxed{5}$ 一)
- ◆ 1 話の中心に気を付けて聞き分らない点や確認したい点を質問したり、話し手の意図を捉えながら聞き考えをまとめたりすることに課題が見られる。(小学4年生 $\boxed{1}$ 五、小学5年生 $\boxed{1}$ 五)
- ◆ 2 場面の様子に注意しながら読んだり、物語を読んであらすじを書いたり、叙述を基に自分の考えをまとめたりすることに課題が見られる。
(小学4年生 $\boxed{3}$ 三、小学5年生 $\boxed{3}$ 一、小学6年生 $\boxed{3}$ 二)
- ◆ 3 文章の内容を的確に捉えることに課題が見られる。
(小学4年生 $\boxed{4}$ 二、小学5年生 $\boxed{4}$ 一、小学6年生 $\boxed{4}$ 二)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 話の中心に気を付けて聞き分らない点や確認したい点を質問したり、話し手の意図を捉えながら聞き考えをまとめたりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 児童が、必然性をもって話したり聞いたりすることができる課題や場面を設定していますか。
 - 教師の演示などによる質問のモデルを提示して、話の展開に沿った質問を具体的に示したり、児童が自分の質問について振り返る機会を設定したりしていますか。
 - 自分の考えをまとめることができるようにするために、話し手の意図は何か、自分の考えとの共通点や相違点は何かなどを整理しながら聞いたり、自分の考えを表現したり交流したりする機会を設定したりしていますか。
- ◆ 2 場面の様子に注意しながら読んだり、物語を読んであらすじを書いたり、叙述を基に自分の考えをまとめたりする力を育成するためには、文学的な文章を解釈する活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 登場人物の性格や特徴、物語の構成、表現の特徴などを、児童が理解することができるように指導していますか。
 - 出されたそれぞれの考えの共通点や相違点などを明らかにし、ものの見方や考え方を広げることができるような交流の機会を設定していますか。
 - 叙述を基に自分の考えをまとめることができるようにするために、象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容などに気付き、自分の表現に生かすことができるように指導していますか。
- ◆ 3 文章の内容を的確に捉える力を育成するためには、説明的な文章を解釈する活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 書き手がどのような事例を挙げ、考えの理由や根拠としているかを捉えることができるように指導していますか。
 - 文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などについて注意して読むように指導していますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

誤答分析を基にした指導改善（小学校国語科）

- ◆ 1 話の中心に気を付けて聞き分らない点や確認したい点を質問したり、話し手の意図を捉えながら聞き考えをまとめたりすることに課題が見られる。

《小学校4年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問1 五	話の中心に気を付けて聞き、分らない点や確認したい点を質問をする (記述式)	取材のときに、取材に行く前に友達に話している内容や、取材の一部から、どのような質問をしたかを記述する。	38.9	9.1	70.0	50.0

【正答の条件】

次の①、②、③の条件を全て満たしているものを正答とする。

- ①【川田さんが取材の前にグループの友達に話していることの一部】の内容から、【取材の一部】の中で尋ねていないことについて質問することを考えて書いていること。
- ②話すように書いていること。
- ③一文で書いていること。

■ 解答状況

児童の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・話すように一文にすることはできているが、「ぼくもいつか団長になってみたいです。」のように質問することができていない。
- ・話すように一文で質問することはできているが、「では、運動会で成功して思ったことはどんなことですか。」のように【川田さんが取材の前にグループの友達に話していることの一部】の内容から質問することができていない。
- ・話すように一文で質問することはできているが、「その中でも一番大変だったことは、何ですか。」のように【川田さんが取材の前にグループの友達に話していることの一部】の内容から、【取材の一部】の中で尋ねていないことについて質問することができていない。

■ 改善・充実に向けて

話すように一文で質問することはできていますが、目的に応じて話を聞き、話の展開に沿って質問することに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・知らなかったことに気付いたり、自分の考えを深めたりする話題を取り上げ、児童が必然性をもって話したり聞いたりすることができるようにする。
- ・教師の演示などによるインタビューや質問のモデルを提示して、話の展開に沿った質問の仕方を具体的に示したり、児童が自分のインタビューや質問の仕方を振り返る機会を設定したりする。
- ・話す活動だけでなく、聞く活動の見通しを具体的にもたせる。学習の導入場面において、聞く際の観点を示したり、聞く活動の後に自分の考えを表現・交流する活動を行うことを伝えたりする。

- ◆ 2 場面の様子に注意しながら読んだり、物語を読んであらすじを書いたり、叙述を基に自分の考えをまとめたりすることに課題が見られる。

《小学校6年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問3 二	叙述を基に、自分の考えをまとめる (記述式)	物語文中の「新しいこと」とはどのようなことを表すのか、その内容を記述する。	47.7	9.5	70.0	50.0
<p>【正答の条件】</p> <p>「亮太」、「一平」、「駿」、「森田君」という言葉を全て使って書いているものを正答とする。ただし、人物の名前をひらがなで書いているものも正答とする。</p>						

■ 解答状況

児童の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・「亮太」、「一平」、「駿」、「森田君」という言葉を全て使って書くことはできているが、「前の町に行っても、亮太と一平と駿と森田君がはなればなれのままになること。」のように叙述を基にせず想像したことを書いており、「新しいこと」について読み取ることができていない。
- ・「亮太」、「一平」、「駿」、「森田君」という言葉を全て使って書くことはできているが、「一平が亮太の知らない猫の話を始め、駿や森田君も話しているが、何を話していいかわからなくなるような話。」のように「新しいこと」について、読み取ることができていない。
- ・「亮太」、「一平」、「駿」、「森田君」という言葉を全て使い、「新しいこと」の内容に触れることはできているが、「亮太が転校してから、一平、駿、森田君は、ねこのうわさがひろまっていること。」のように主語と述語の関係や助詞を適切に用いて表現することができていない。

■ 改善・充実に向けて

叙述を基に想像しながら自分の考えをまとめることに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・登場人物の性格や特徴、物語の構成、表現の特徴などを児童が理解することができるような活動を位置付ける。特に、高学年では、優れた叙述に着目して読むことや、登場人物の心情の変化について図示する活動を位置付ける。
- ・叙述を取り上げながら、「叙述を基にしてどのように考えたのか」を交流することで、出されたそれぞれの考えの共通点や相違点などを明らかにし、ものの見方や考え方を広げることができるような交流の機会を設定する。
- ・叙述を基に自分の考えをまとめることができるような活動を位置付ける。象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容などを見付け、その表現や内容を生かしたモデル文を示してそれを基に自分の考えをまとめる機会を設定する。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校国語（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 相手に分かりやすい語句を選択して話したり、目的に応じて資料を効果的に活用して話したりすることができる。
(中学1年生¹二、中学2年生¹二)
- ◇ 話し手の意図を捉えて質問したり、相手の立場や考えを尊重し、自分の考えを広げたりすることができる。
(中学1年生¹三、中学2年生¹五)
- ◆1 全体と部分との関係に注意して話の構成を工夫したり、目的に沿った話合いになるように適切に意見を述べたりすることに一部課題が見られる。
(中学1年生¹四、中学2年生¹四)
- ◆2 表記の仕方を確かめて分かりやすい文にしたり、具体例を加えて、感想を分かりやすく伝えたりすることに課題が見られる。
(中学1年生²一、中学校2年生²五)
- ◆3 説明文の表現の特徴を捉えたり、小説の文章の展開について自分の考えをもったりすることに課題が見られる。
(中学1年生³二、中学2年生⁴二)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 全体と部分との関係に注意して話の構成を工夫したり、目的に沿った話合いになるように適切に意見を述べたりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 全体と部分との関係に注意して話を構成するために、生徒が最も伝えたいことと、それを伝えるための構成メモ等を作成し、全体と部分とを意識して話をしたり、聞いたりすることができるようにしていますか。
 - 話合い全体の目的と展開を意識できるように簡単な進行表を用意し、現在、話していることと、次の話題とのつながりを生徒が意識することができるようにしていますか。
- ◆2 表記の仕方を確かめて分かりやすい文にしたり、具体例を加えて、感想を分かりやすく伝えたりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 文章を書いた後に、一文の長さ、文のねじれ、同じ助詞の多用等、推敲するための観点をチェックシート等で分かりやすく示した上で、生徒が読み返す習慣を付けていますか。
 - 書いた文章について考えを交流する場面では、生徒が、互いの文章について質問する機会を設け、「意見について例示がなされているか」「その例が適切で分かりやすいものになっているか」ということを、生徒自身が問うことができるようにしていますか。
- ◆3 説明文の表現の特徴を捉えたり、小説の文章の展開について自分の考えをもったりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 説明文の表現の特徴を捉えることができるようにするために、生徒が、他の説明文と比べ読みを行うことで、筆者の表現の特徴が分かるようにしていますか。また、評論文や意見文など他の文章の種類と比べ読みを行うことで、文章の種類による叙述の特徴が分かるようにしたりしていますか。
 - 登場人物の描写を整理し、それを根拠として登場人物の心情を説明するために、生徒が、他の登場人物の描写と比較したり、時系列で心情描写や行動描写の変化を図示したりすることができるようにしていますか。
 - 「指導事項」「言語活動」「単元を中心となる思考操作」を明示した学習課題を設定し、生徒が自分の問いをもって読み進めることができるようにしていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

誤答分析を基にした指導改善（中学校国語科）

◆ 1 全体と部分との関係に注意して話の構成を工夫することにより一部課題が見られる。

《中学校 1 年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問1 四	全体と部分との関係に注意して話の構成を工夫する。 (選択式)	文章全体のまとめとしてふさわしい内容を考える。	53.1	0.7	70.0	50.0

■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・「イ 山田さんの周りでも言葉を違った意味で捉えている人が多いこと」や「エ 『国語に関する世論調査』にも同様の例が多く見られること」を選択している生徒は、自身が前述した例を再度提示することに不自然さを感じておらず、全体と部分の関係に注意して話の構成を考えることができていない。
- ・「ウ 山田さんも『煮詰まる』を間違った意味で捉えていたこと」は、先生とのやり取りで明らかになった事実であり、ウを選択している生徒は、設問にある「山田さんが先生とのやり取りで考えたこと」を入れた方が、発表のまとめとしてよいのではないかという意見を考慮することができていない。

■ 改善・充実に向けて

事実から導き出した考えを文章全体として述べたいことに結び付けて文章全体のまとめとすることに課題が見られます。また、問題文の中にある「その内容」という言葉が指すものが、②に入る「山田さんが先生とのやり取りで考えたこと」であるという照応の関係が読み取れていないという課題も見られます。この課題を解決するためには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・取材した材料や事実、自分の考えや意見をどのように配列して話の全体を構成するかということについて、授業者が示したモデルのスピーチ原稿を読んで考える活動を授業に位置付ける。
- ・話の全体として伝えたいことを明確にして、それを分かりやすく伝えることができるようにするためにスピーチについて授業者が示したチェックポイントに基づいてグループで助言をしたり、録画した映像を見て自己点検したりするなどの活動を授業に位置付ける。
- ・短い文章の中の論理構成を正しく捉えることができるようにするために、主語・述語の関係や修飾・被修飾の関係を正しく捉えたり、指示語が指すものを的確に抜き出したりする活動を単元に位置付ける。

◆ 3 小説の文章の展開について自分の考えをもつことに課題が見られる。

《中学校2年生》

■ 設問の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4 二	文章の展開について自分の考 えをもつ。 (記述式)	登場人物の心情について、文 章の展開を踏まえて、考えを もつ。	19.3	31.0	55.0	35.0

【正答の条件】

次の①、②、③の条件を全て満たしているものを正答とする。

- ①話し言葉で書いていること。
- ②野村さんの質問に対する答えを書いていること。
- ③話の展開を取り上げ、真郷と律を対比して書いていること。

■ 解答状況

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

- ・登場人物の心情とそのような心情になった理由を書かなければならないという事は理解できているが、いずれかを正しく読み取ることができていない。
- ・登場人物の心情が表現されている部分を捉え、話し言葉で書くことはできているが、心情を正しく読み取ることができていない。

■ 改善・充実に向けて

登場人物の設定や物語の展開を踏まえて、描写を基に登場人物の心情を正しく捉えることに課題が見られます。この課題を解決するには、次のような指導を行うことが大切です。

- ・登場人物の心情と言動や情景を結び付けるために、心情マップや心情曲線など登場人物の言動や情景描写等を基にして、心情の変化を図示する活動を授業に位置付ける。
- ・心情を表す語彙を充実するために、文章に用いられている心情を表す語句を抜き出して、用例とともにまとめる活動を授業に位置付ける。
- ・文章中に見られる表現の特徴について、自分の考えをまとめる活動や表現の特徴を模倣し、リライトする活動を授業に位置付ける。
- ・登場人物の人物像について、他の登場人物と比較するなどして登場人物の描写を整理し、根拠を明確にして説明する活動を授業に位置付ける。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

〔表1〕 小学4年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,458	70.1	4.5	82.3	62.3	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	62.7	2.4	80.0	60.0	
	書く	5	64.6	2.6	80.0	60.0	
	読む	5	67.5	3.0	82.0	62.0	
	漢字の読み	3	88.5	3.2	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	60.3	8.7	85.0	65.0	▼
	語句に関する知識	7	77.7	7.2	83.6	63.6	
評価の観点	①話す・聞く	5	62.7	2.4	80.0	60.0	
	②書く	5	64.6	2.6	80.0	60.0	
	③読む	5	67.5	3.0	82.0	62.0	
	④知識・理解・技能	13	76.2	6.6	84.2	64.2	
問題形式	選択式	18	73.4	2.8	82.8	62.8	
	短答式	8	69.8	7.6	84.4	64.4	
	記述式	2	42.6	7.6	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	2	42.6	7.6	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成	
1	一	理由を挙げながら、筋道を立てて話す	○					○					63.3	0.5	85	65	▼
1	二	話の内容に関心をもって聞き、感想を述べて質問をする	○					○					75.8	0.6	85	65	
1	三	取材をして、調べたことの要点のメモをする	○					○					71.6	0.8	80	60	
1	四	取材をして、必要な事柄を整理してメモをする	○					○					64.0	1.1	80	60	
1	五	話の中心に気を付けて聞き、分からない点や確認したい点を質問をする	○					○			○	○	38.9	9.1	70	50	▼
2	一	関心のある事柄などから書くことを決める	○					○					76.3	0.9	85	65	
2	二	段落相互の関係に注意して書く	○					○					77.8	1.1	80	60	
2	三	分かりやすく説明するために、図や写真を取り上げる	○					○					75.7	1.2	80	60	
2	四	必要に応じて、事例を挙げて書く	○					○					46.8	3.7	85	65	▼
2	五	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして、文章を書く	○					○			○	○	46.3	6.2	70	50	▼
3	一	叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む	○					○					75.6	1.9	85	65	
3	二	登場人物の行動や会話に即して読む	○					○					76.5	2.1	80	60	
3	三	場面の様子に注意しながら読む	○					○					44.4	2.5	80	60	▼
4	一	叙述を基に、段落相互の関係を捉える	○					○					83.3	3.7	85	65	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	二	段落の内容を読み取り、事実関係を捉える			○				○		○			57.6	4.6	80	60	▼	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「雨戸」			○				○		○		90.8	2.3	85	65	◎		
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「苦い」			○				○		○		92.1	2.0	85	65	◎		
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「荷台」			○				○		○		82.6	5.4	85	65			
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「医者」				○			○		○		60.4	8.5	85	65	▼		
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「屋根」				○			○		○		63.0	7.7	85	65	▼		
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「研究」				○			○		○		57.4	9.8	85	65	▼		
5	三	漢字の部首について理解する				○			○		○		86.6	5.2	85	65	◎		
5	四①	ローマ字を正しく書く「inu」				○			○		○		46.1	11.6	80	60	▼		
5	四②	ローマ字を正しく読む「とんぼ」				○			○		○		65.6	13.1	85	65			
5	五①	指示語の役割を理解する				○			○		○		90.0	4.4	85	65	◎		
5	五②	指示語の役割を理解する				○			○		○		90.9	4.5	85	65	◎		
5	五③	指示語の役割を理解する				○			○		○		86.7	4.9	85	65	◎		
5	六	ことわざの意味を理解する				○			○		○		77.8	6.6	80	60			

[表2] 小学5年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,398	60.3	4.2	81.3	61.3	▼

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	64.5	1.3	80.0	60.0	
	書く	5	54.2	1.9	79.0	59.0	▼
	読む	5	59.3	4.2	79.0	59.0	
	漢字の読み	3	71.2	3.5	85.0	65.0	
	漢字の書き	3	52.6	9.3	85.0	65.0	▼
	語句に関する知識	6	61.3	6.4	82.5	62.5	▼
評価の観点	①話す・聞く	5	64.5	1.3	80.0	60.0	
	②書く	5	54.2	1.9	79.0	59.0	▼
	③読む	5	59.3	4.2	79.0	59.0	
	④知識・理解・技能	12	61.6	6.4	83.8	63.8	▼
問題形式	選択式	14	67.4	1.9	82.1	62.1	
	短答式	10	54.8	6.7	83.5	63.5	▼
	記述式	3	45.7	6.8	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	3	45.7	6.8	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成	
1	一	目的や意図に応じて、場に応じた適切な言葉遣いで話す	○										74.7	0.3	85	65	
1	二	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように、話の構成を工夫する	○										82.3	0.3	85	65	
1	三	自分の立場を明確にして話す	○										61.0	0.3	80	60	
1	四	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように、話の構成を考える	○										62.4	0.6	80	60	
1	五	話し手の意図を捉えながら聞き、考えをまとめる	○								○	○	41.9	5.2	70	50	▼
2	一	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える	○										72.7	0.3	85	65	
2	二	目的や意図に応じて、記事に見出しを付ける	○										54.6	0.5	80	60	▼
2	三	文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする	○								○		28.6	3.5	80	60	▼
2	四	事実と自分の感想を区別して書く	○										60.4	0.7	80	60	
2	五	目的や意図に応じて、詳しく書く	○								○	○	54.5	4.5	70	50	
3	一	物語を読んで、指示された部分についてのあらすじを書く	○								○	○	40.8	10.7	70	50	▼
3	二	叙述を基に、登場人物の心情、場面についての描写を捉える	○										75.7	2.5	80	60	
3	三	登場人物の関係や場面についての描写を捉える	○										53.9	3.2	80	60	▼
4	一	文章の内容を的確に捉える	○										62.5	2.1	85	65	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	
4	二	段落の要点を捉える		○					○		○			63.3	2.5	80	60	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「汽笛」			○				○		○			53.7	4.9	85	65	▼
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「改める」			○				○		○			76.5	2.0	85	65	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「労働」			○				○		○			83.3	3.4	85	65	
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「放送」				○			○		○			66.2	6.8	85	65	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「祝う」				○			○		○			52.0	10.9	85	65	▼
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「旗」				○			○		○			39.7	10.4	85	65	▼
5	三1	漢字辞典の使い方を理解する					○		○		○			49.2	3.6	85	65	▼
5	三2	熟語の意味を理解する					○		○		○			39.9	3.7	80	60	▼
5	四	修飾と被修飾の関係を理解する																
5	五①	ローマ字を正しく書く「denki」					○		○		○			30.8	10.9	80	60	▼
5	五②	ローマ字を正しく読む「かんしゃ」					○		○		○			68.2	10.3	80	60	
5	六1	接続語を使って、一文を二文にする					○		○		○			90.1	4.9	85	65	◎
5	六2	接続語を使って、一文を二文にする					○		○		○			89.8	5.1	85	65	◎

[表3] 小学6年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

県	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,332	74.6	1.7	81.7	61.7	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	66.2	1.1	80.0	60.0	
	書く	5	75.9	1.7	80.0	60.0	
	読む	5	56.6	2.7	80.0	60.0	▼
	漢字の読み	3	95.8	0.8	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	77.1	3.2	85.0	65.0	
	語句に関する知識	6	83.5	1.1	82.5	62.5	◎
評価の観点	①話す・聞く	5	66.2	1.1	80.0	60.0	
	②書く	5	75.9	1.7	80.0	60.0	
	③読む	5	56.6	2.7	80.0	60.0	▼
	④知識・理解・技能	12	85.0	1.5	83.8	63.8	◎
問題形式	選択式	16	76.1	0.6	82.8	62.8	
	短答式	8	79.3	1.9	83.8	63.8	
	記述式	3	53.8	6.8	70.0	50.0	
活用	「活用」に関する問題	3	53.8	6.8	70.0	50.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成		おおむね達成
1	一	理由を挙げながら筋道を立てて話す	○					○						90.4	0.0	85	65	◎
1	二	話合いの意図を明確にしながら、計画的に話し合う	○					○						58.1	0.1	85	65	▼
1	三	相手の話を聞き取り、自分の考えを整理して質問をする	○					○						50.1	0.1	80	60	▼
1	四	目的に応じて、話の構成を工夫する	○					○						75.2	0.2	80	60	
1	五	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる	○					○			○	○	57.3	4.9	70	50		
2	一	自分の考えが明確になるように文章を構成する	○					○						77.1	0.2	85	65	
2	二	目的や意図に応じて、取材の内容や方法を考える	○					○						78.0	0.2	80	60	
2	三	文章の構成を考えて書く	○					○						87.2	0.2	85	65	◎
2	四	目的や意図に応じて、表現を工夫して書く	○					○		○				80.7	1.8	80	60	◎
2	五	助言を基に、自分の考えを深める	○					○			○	○	56.3	6.1	70	50		
3	一	場面についての描写を捉えて読む	○					○		○				37.3	0.9	85	65	▼
3	二	叙述を基に、自分の考えをまとめる	○					○			○	○	47.7	9.5	70	50	▼	
4	一	事実と意見、感想などを区別して読む	○					○		○				90.0	0.5	85	65	◎
4	二	文章の内容を的確に押さえる	○					○		○				35.4	1.5	80	60	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	三	文章の要旨を捉える		○					○		○			72.7	1.0	80	60		
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「余る」			○				○		○			94.9	0.8	85	65	◎	
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「断る」			○				○		○			96.2	0.7	85	65	◎	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「規則」			○				○		○			96.4	0.9	85	65	◎	
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「焼く」				○			○		○			79.6	2.0	85	65		
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「似ている」				○			○		○			81.6	2.8	85	65		
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「貿易」				○			○		○			70.0	4.7	85	65		
5	三1	文の中における主語・述語を捉える					○		○		○			79.1	1.0	85	65		
5	三2	文の中における主語・述語を捉える					○		○		○			70.7	1.2	85	65		
5	四1	国語辞典の使い方を理解する					○		○		○			90.2	0.9	85	65	◎	
5	四2	慣用句の意味を理解する					○		○		○			79.3	1.0	80	60		
5	五	同音異義語の意味を理解する					○		○		○			90.0	1.2	80	60	◎	
5	六	熟語の構成を理解する					○		○		○			91.6	1.3	80	60	◎	

[表4] 中学1年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,790	59.1	5.6	71.1	51.1	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	57.8	3.6	69.0	49.0	
	書く	5	54.7	3.5	71.0	51.0	
	読む	5	52.6	3.6	71.0	51.0	
	漢字の読み	5	86.4	4.0	72.0	52.0	◎
	漢字の書き	5	48.2	17.5	71.0	51.0	▼
	語句に関する知識	6	55.6	2.2	72.5	52.5	
評価の観点	①話す・聞く	5	57.8	3.6	69.0	49.0	
	②書く	5	54.7	3.5	71.0	51.0	
	③読む	5	52.6	3.6	71.0	51.0	
	④知識・理解・技能	16	62.9	7.5	71.9	51.9	
問題形式	選択式	13	57.4	0.9	73.5	53.5	
	短答式	14	65.2	8.9	71.4	51.4	
	記述式	4	43.6	9.4	62.5	42.5	
活用	「活用」に関する問題	3	46.5	10.6	60.0	40.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成	
1	一	分かりやすく伝えるために話の構成を工夫する	○										48.5	0.2	75	55	▼
1	二	相手に分かりやすい語句を選択する	○								○		66.9	7.2	70	50	
1	三	話し手の意図を捉えて質問をする	○										79.6	0.4	75	55	◎
1	四	全体と部分との関係に注意して話を構成する	○										53.1	0.7	70	50	
1	五	伝えたいことを述べるために、どのような事実を取り上げるかを考えて話す	○									○	41.1	9.6	55	35	
2	一	表記の仕方を確かめて分かりやすい文にする	○										34.8	5.9	70	50	▼
2	二	伝えたい事柄について、効果的に書く	○										69.5	0.8	75	55	
2	三	材料を整理する	○									○	48.9	8.6	65	45	
2	四	根拠を明確にして書く	○										72.2	0.9	70	50	◎
2	五	目的や意図に応じた文章の構成を考える	○										48.1	1.1	75	55	▼
3	一	文脈の中における語句の意味を理解する	○										40.8	0.7	70	50	▼
3	二	説明文の表現の特徴を捉える	○										30.0	1.1	75	55	▼
4	一	小説の表現の特徴を捉える	○										67.9	1.2	75	55	
4	二	描写に注意して読む	○										75.0	1.2	75	55	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	三	登場人物の描写に注目し、内容を理解する			○				○			○	○	49.5	13.5	60	40	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「隣接」			○				○					73.8	9.4	70	50	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「延期」			○				○					96.7	0.8	70	50	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「快く」			○				○					75.4	7.2	75	55	◎
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「縮める」			○				○					93.1	0.6	70	50	◎
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「朗報」			○				○					92.9	1.8	75	55	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「在庫」				○			○					37.8	16.2	75	55	▼
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「専門」				○			○					42.8	13.4	70	50	▼
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「干す」				○			○					82.7	10.0	70	50	◎
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「展望」				○			○					23.1	25.4	70	50	▼
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの熟語) 「垂れる」				○			○					54.4	22.7	70	50	
5	三	文節の区切りを理解する					○		○					50.5	1.2	70	50	
5	四	文脈の中で語句を正しく使う					○		○					31.8	0.9	70	50	▼
5	五	語句の意味を文脈に即して理解する					○		○					69.2	1.2	75	55	
5	六1	古典には様々な種類の作品があることを知る					○		○					60.2	1.5	75	55	
5	六2	古文のおおよその内容を理解する					○		○					55.5	4.1	70	50	
5	六3	歴史的仮名遣いについて理解する					○		○					66.7	4.1	75	55	

[表5] 中学2年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,885	57.8	9.2	69.7	49.7	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	63.3	5.7	68.0	48.0	
	書く	5	52.5	9.4	68.0	48.0	
	読む	5	44.3	10.7	66.0	46.0	▼
	漢字の読み	5	89.4	2.5	73.0	53.0	◎
	漢字の書き	5	48.1	23.8	71.0	51.0	▼
	語句に関する知識	9	52.9	5.8	71.1	51.1	
評価の観点	①話す・聞く	5	63.3	5.7	68.0	48.0	
	②書く	5	52.5	9.4	68.0	48.0	
	③読む	5	44.3	10.7	66.0	46.0	▼
	④知識・理解・技能	19	61.2	9.6	71.6	51.6	
問題形式	選択式	11	61.0	1.7	70.9	50.9	
	短答式	18	59.9	11.3	71.7	51.7	
	記述式	5	43.0	18.0	60.0	40.0	
活用	「活用」に関する問題	3	40.2	19.9	56.7	36.7	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む					④知識・理解・技能	十分達成	
1	一	話の論理的な構成や展開などを捉える	○										75.3	0.3	70	50	◎
1	二	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	○										84.7	1.3	70	50	◎
1	三	話の中心的部分と付加的な部分の関係に注意し、論理的な構成や展開を意識して話す	○										67.6	0.7	70	50	
1	四	目的に沿った話し合いになるように適切に意見を述べる	○							○			26.1	14.6	75	55	▼
1	五	相手の立場や考えを尊重し、自分の考えを広げる	○								○	○	62.6	11.4	55	35	◎
2	一	目的や意図に応じて効果的に伝えるように書く	○										71.1	0.9	70	50	◎
2	二	書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にする	○								○		26.2	8.6	75	55	▼
2	三	書いた文章を読み返し、社会生活の中から多様な方法で材料を集める	○								○		78.2	5.5	70	50	◎
2	四	伝えたいことを明確にして、構成を工夫した文章にする	○								○		48.2	14.9	65	45	
2	五	具体例を加えて、分かりやすく伝える	○								○	○	38.6	17.2	60	40	▼
3	一	例示の効果を考え、内容を理解する	○								○		54.4	1.4	70	50	
3	二	抽象的な概念を表す語句に注意して読む	○								○		35.3	3.8	70	50	▼
3	三	文章全体と部分との関係に注意して読む	○								○		46.4	15.4	65	45	
4	一	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	○								○		66.1	2.0	70	50	

設問別集計結果

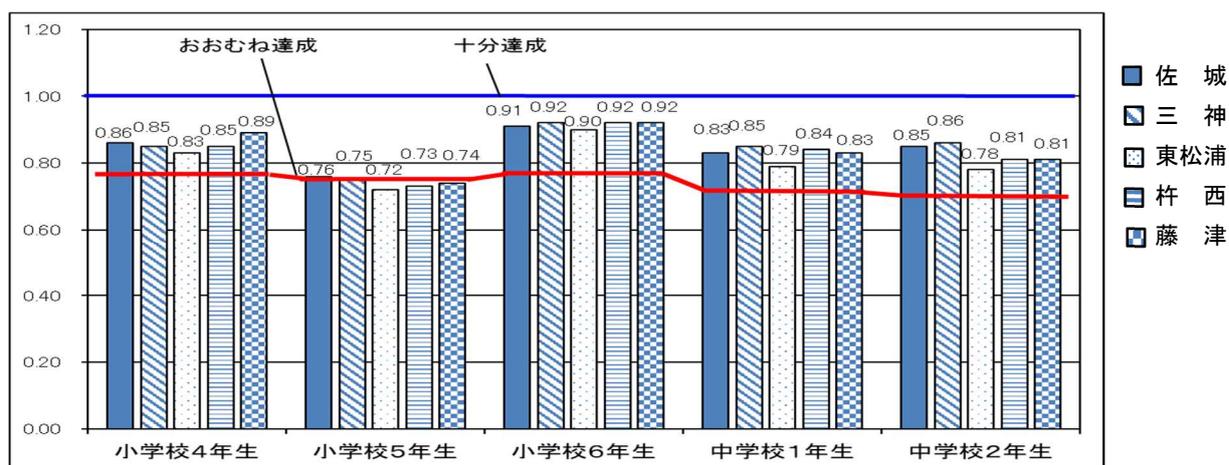
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	二	文章の展開について自分の考えをもつ		○				○				○	○	19.3	31.0	55	35	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「不服」			○				○					81.4	4.8	75	55	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「納得」			○				○					98.7	0.6	70	50	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓) 「定規」			○				○					96.0	0.7	70	50	◎
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「刻印」			○				○					80.3	4.3	75	55	◎
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「嚴重」			○				○					90.8	2.4	75	55	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの漢字) 「根幹」				○			○					10.6	53.3	70	50	▼
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「拾(う)」				○			○					66.8	6.3	75	55	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「救急」				○			○					57.6	11.2	70	50	
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「沿(って)」				○			○					35.9	32.9	70	50	▼
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「圧縮」				○			○					69.4	15.0	70	50	
5	三1	文脈の中で語句を正しく使う(文節の働き)					○		○					70.4	8.1	70	50	◎
5	三2	文脈の中で語句を正しく使う(文節の働き)					○		○					45.2	8.7	65	45	
5	四	文脈の中で語句を正しく使う(単語の類別)					○		○					31.7	2.6	70	50	▼
5	五	事象や行為などを表す多様な語句について理解を深める(比喻表現)					○		○					39.3	1.9	70	50	▼
5	六	行書のきまりを知る					○		○					40.2	1.8	75	55	▼
5	七1	古典には様々な種類の作品があることを知る					○		○					74.1	2.6	75	55	
5	七2	現代語訳を手掛かりにして作品の内容を理解する					○		○					67.5	14.6	70	50	
5	七3	歴史的仮名遣いについて理解する					○		○					41.3	8.0	75	55	▼
5	七4	描かれている情景を想像しながら読む					○		○					66.0	3.4	70	50	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況は、5学年中4学年で5地域とも「おおむね達成」の基準に達している。[グラフ12]
- 県内5地域における学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、中学校2年生で地域差が最も大きい。また、平成29年度12月調査と比べて小学校6年生で地域差が縮小し、他の学年は地域差が拡大している。

[グラフ12] 県内5地域における学年別平均正答率の到達状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学校4年生	H30[12月]	1.01	1.00	0.97	1.00	1.04	拡 0.07
	H29[12月]	1.01	0.99	0.97	1.00	1.02	0.05
小学校5年生	H30[12月]	1.02	1.01	0.97	0.99	1.00	拡 0.05
	H29[12月]	1.01	1.00	0.98	1.00	1.02	0.04
小学校6年生	H30[12月]	1.00	1.00	0.99	1.01	1.01	縮 0.02
	H29[12月]	1.00	1.02	0.98	0.99	1.02	0.04
中学校1年生	H30[12月]	1.00	1.03	0.95	1.01	1.00	拡 0.08
	H29[12月]	1.00	1.02	0.95	1.02	0.99	0.07
中学校2年生	H30[12月]	1.02	1.03	0.94	0.97	0.98	拡 0.09
	H29[12月]	1.01	1.03	0.96	1.00	0.97	0.07

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「縮」は、平成29年度[12月調査]より地域差が縮小したことを、「拡」は拡大したことを示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町